

場所 大阪府泉南市

面積 11ha

活動目的 さまざまな生態系がモザイク状に重なり合う里山環境に生息する生きものを、ドコモグループのICTなどのアセットを活用して守り育てていくこと

サイト概要 サイト名称：ドコモ泉南堀河（せんなんほりご）の森
サイトの価値：

- 大阪南部地域の里地里山に成立する自然豊かな環境（アカマツ林、水辺、落葉広葉樹林、常緑広葉樹林）
- 上記4つの環境に成立する生態系がモザイク状に重なり合っていること
- 里地里山を象徴する生物が存在していること



土地利用の変遷

活動開始時点（2000年）では、薪炭林や木材生産林としての利用が減退し、低木・草本層の遷移が進んでいた。アカマツ林については、統治責任者により松枯れ対策・間伐・落ち葉掻き等が行われている。落葉広葉樹林の一部については、申請者により間伐・下草刈り等が行われ、樹液に集まる昆虫類等が生息する落葉広葉樹林が成立する環境にある。水辺についても、活動責任者により水脈の確保等が行われ、トンボ類やカエル等の両生類が生息する環境が維持されている。

サイト周辺の環境

本サイト周辺には、二次林（尾根筋：アカマツ林、斜面：落葉広葉樹林、谷部：ヒノキ林・常緑広葉樹林）や水辺（沢筋、淀み）が存在するほか、本サイトの下流部には水田において稲作が行われており、沢筋を介したエコロジカル・ネットワークが形成されている。

アピールポイント

本サイトは大阪南部地域の豊かな里地里山の自然が成立しており、オオムラサキ・ニホンヒキガエルに代表されるような、里地里山を象徴する希少生物が生育生息する環境となっている。今後は、自然共生サイトに認定されることで、活動開始以来申請者を中心として100回以上行ってきた保全活動をさらに活発化させていくと共に、ドコモグループのICTなどのアセットを活用した生態系保全活動にチャレンジしたい。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

本サイトでは、区域中央に沢筋を中心とした水辺みられるほか、尾根筋から谷筋に沿ってアカマツ林、落葉広葉樹林、谷部：常緑広葉樹林といった二次林がモザイク状に配置され、里地里山的な環境が形成されている。落葉広葉樹林や水辺周辺では間伐・萌芽更新の促進や水位確保や適度な浚渫等の活動によりオオムラサキやニホンヒキガエルがそれぞれ生育・生息している。

【主な植生】

申請区域内の二次林における植生は、大部分をコナラ-アベマキ群集が占めている。なお区域全体では、アカマツ-モチツツジ群集、常緑広葉樹林（優占種など未同定）が成立している。



写真説明：ゾーニング C：落葉広葉樹林ゾーンの林内



写真説明：ゾーニング B：水辺ゾーンの外観（冬季）

生物多様性の価値

価値（4）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

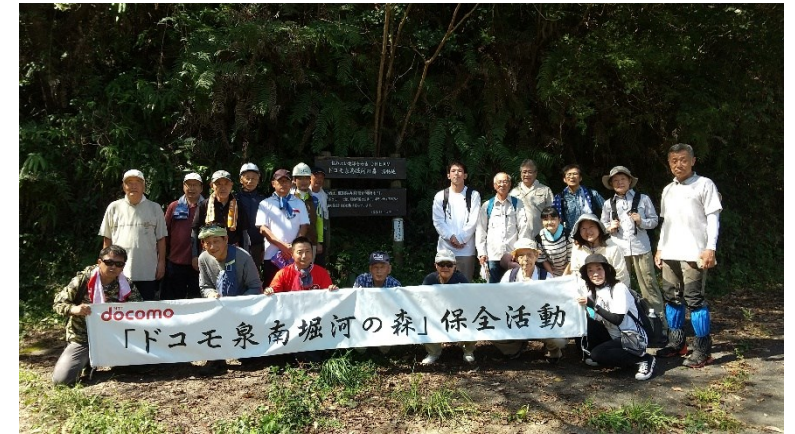
【場の概況】

本サイトの大部分を占めるコナラ-アベマキ群集の一部では、文化的サービスの「教育・レクリエーション」を目的としてドコモ社員を中心に、2000年から2023年9月まで計124回の活動を行ってきている。

- 2000年 **「みどりすとの森づくり」として活動を開始**
「みどりすとの森」整備と植林、「わいわい村」での畑整備やクリの木の植栽、廃材やつるを活用したクラフトづくりを実施。
- 2002年 **名称を「ドコモ泉南 堀河の森」に変更し活動**
- 2015年 **「第100回記念活動」を実施**
森林浴などができるよう小川周辺の整備や山頂をめざした歩道整備を中心にした活動を実施。また、家族での参加が多いため子どもを対象にしたイベントなども併せて開催。（自然観察や作物収穫）



写真説明：社員を中心とした保全・整備活動



生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場

【場の概況】

アカマツ林：尾根筋の貧栄養で痩せた土地に成立

落葉広葉樹林：山体斜面部の広範囲にわたりアベマキ-コナラ群集が成立

水辺：谷筋を流れる沢筋が合流し一定の水量及び水深の確保された水域が成立

【確認された希少種】

●和名：オオムラサキ / 学名：*Sasakia charonda*

分類学的位置付け：チョウ目タテハチョウ科

希少度：環境省・準絶滅危惧（NT）、大阪府・準絶滅危惧（NT）

現地での概要：成虫は、コナラやクリなどの樹種の樹液が出る時期に確認されている。幼虫も2024年1月確認されている。

●和名：ニホンヒキガエル / 学名：*Bufo japonicus*

分類学的位置付け：無尾目ヒキガエル科

希少度：大阪府・絶滅危惧Ⅱ類

現地での概要：毎年3-12月ごろに、水辺・草地・森林にて生体が確認されている。



写真説明：ゾーニングC：落葉広葉樹林ゾーンで確認されたオオムラサキの幼虫



写真説明：ゾーニングB：水辺ゾーンとゾーニングC：落葉広葉樹林ゾーンの境周辺で確認されたニホンヒキガエルの成体

サイトの活動計画・モニタリング計画

活動計画の内容	モニタリング計画の内容
<p>■めざす姿 さまざまな生態系がモザイク状に重なり合う里山環境に生息する生きものをドコモグループのアセットを活用して守り育てていく森</p> <p>■活動内容 申請区域を「A：アカマツ林ゾーン」「B：水辺ゾーン」「C：落葉広葉樹林ゾーン」「D：常緑広葉樹林ゾーン」に分けて、各ゾーンの保全に貢献するよう以下の活動を行う。</p> <p>A：アカマツ林ゾーン / このゾーンでは、アカマツ-モチツツジ群集をベースに、アカマツの維持管理・広葉樹の萌芽更新の定期的な刈り取り・常緑性低木（ソヨゴ、ツツジなど）の定期的な刈り取り及び日照の確保・リター層及び腐植層の掻き取り除去などを実施することで、環境を整備していく(価値(6))。</p> <p>B：水辺ゾーン / このゾーンでは、沢筋の流量を確保し水深や流速等が多様な場所を創出することで、水辺を利用する生物が生育できる環境を整備していく(価値(3)(4)(6))。</p> <p>C：落葉広葉樹林ゾーン / このゾーンでは、アベマキ-コナラ群集をベースに、エノキの保全・餌資源となるクヌギやコナラを中心とした整備・防鹿柵の設置などを実施することで、樹液に集まる昆虫類が生息できる環境を整備する(価値(3)(4)(6))。</p> <p>D：常緑広葉樹林ゾーン / このゾーンでは、今後の調査を通じて各ゾーンの環境や特性を把握した上で、保全管理及びモニタリング計画を策定していく。</p>	<p>【モニタリング対象】 植物、両生類、昆虫類、菌類を対象とする。</p> <p>【モニタリング場所】 A_アカマツ林 B_水辺：水辺の特に水環境ごとに選定した地点 C_落葉広葉樹林：落葉広葉樹の中でも樹液が出ている木がある地点 D_常緑広葉樹林ゾーン：今後要検討</p> <p>【モニタリング手法】 A：アカマツ林ゾーン：植物相調査等 B：水辺ゾーン：植物相、現地での目視及び捕獲、両生類卵塊調査 C：落葉広葉樹林ゾーン：植物相、現地での目視及び捕獲調査 / D：常緑広葉樹林ゾーン：今後要検討</p> <p>【モニタリングの実施時期及び頻度】 各エリアの指標種を中心に、対象が確認できる時期に調査を行う。 調査頻度：年に3～4回を予定</p> <p>【モニタリング実施体制】 株式会社NTTドコモの社員が中心となって実施。種同定及び分析・モニタリング計画見直し等の助言は、信達郷共有林野組合、公益財団法人大阪みどりのトラスト協会、NPO法人ホールアース自然学校、有識者(平井教授：大阪公立大学大学院)に助言を仰ぎながらモニタリングを実施。</p>